

# 新命 挨拶



昇殿する新命和尚

この度、正定寺晋山式におきまして多くの檀信徒の皆様のお力添えを受け、盛大に迎えて戴き、改めてその重責を感じております。

昭和六十年に二十三世住職と寺庭との間に生を受けた私は、暖かい檀信徒の皆様から我が子の様に喜ばれ誕生したのだと出家する時に聞きました。そんな事を思っ

ている方々が居るとも思わず、たまたま生まれた場所がお寺で何故自分が跡を継がなければならぬのか、と思いつながら高校に通っておりまし

「お寺の子だからこうしなさい。」

「お寺の子はこうあるべきだ。」

そんな言葉が疎ましく、周囲から見れば呆れるくらいヤンチャな性格をわ

ざと目指して反抗した時期もありました。

三年生になり進路を選択する時にも、先住からは後継者となるべく仏教系の大学に進学を勧められました。水泳を志していた私は、自分のしたい事を全うする為、先住に頭を下げ、中京大学に進むことを許して戴きました。

この時の夢は教員で、上手く行けばお坊さんにならずに体育教員になれるかもしれない！そう願っていました。

四年間というものは、命をかけてという表現が大袈裟ではないくらい水泳に没頭しました。

大学四年生になり引退となる全国大会で泳ぎ終えた後、今までの水泳人

生での集大成を全部出し切り、自分の人生の後悔が微塵もなくなっていることに気がきました。

自分の人生に満足したのでした。

そこで小原拓朗という人生は一度終えた様に思えました。

有り難くも、なんとわがままで自己中心的な人

生だったか、これから先、南陽としての時間は自分の為の人生ではなく感謝をお返しする人生を送ろうと決意し、出家を決め、修行道場の門を叩きました。とても大変だった修行も私には有り難いものでした。

そして先住が病を患った為、修行後すぐ晋山する運びになりました。

正定寺に住職として迎

えていただく式は、多くの檀信徒の皆様感謝されたい程の過分なるお力添えを戴きました。

総代の皆様には何度も何度も会議を開き、夜遅くまでお寺に残り、晋山式の打ち合わせから今後の法務に至るまでも話し合っ

て戴きました。当日も休む暇無く人力を尽くして戴きました。

一般の御檀家さんにも、二十四世の晋山式に杖として使う為にと南天の木を三十年に渡り大切に大切に育て下さった御檀家さんや、自分は晴れ女だからといって、当日雨が降らないように私が歩く道を歩いて回って下さった御檀家さん。役に就いたからと何日も前から境内を朝から掃除して

# 晋山式のお礼

新年明けましておめでとう  
 とうございます。

昨年（しんねん）はひとかたならぬ  
 お世話を賜りました。

とくに第二十四世新命  
 和尚晋山式の一大行事に  
 かかわって下さった全  
 のみなさまに衷心より感  
 謝申し上げます。

晋山式の当日は、市内  
 をはじめ遠くは東京・名  
 古屋・大阪からお参り  
 をいただきました。

予想以上の参拝者でみ  
 なさまには十分な挨拶も

出来ないままで大変申し  
 訳なく思っています。

世話人さまには晋山式  
 のご説明やご負担の取り  
 集めなどご苦勞を負わせ  
 た地区も在ったと聞いて  
 いますが、総代さんの中  
 心に一糸乱れぬお心はま  
 さに菩薩行と言うにふさ  
 わしいお姿で唯々頭が下  
 がる事ばかりでした。

又、当日ご加勢いただ

きました役員や女性部の  
 みなさまには、伝統行事  
 にふさわしく全員が正礼  
 装の威儀にて新命和尚を  
 迎えていただき、寺院檀  
 信徒の範としたその光景  
 は、後世への「語り草」  
 となる事と感じていま  
 す。

いずれも、開山・開基  
 以来脈々と続く檀信徒の  
 ほかならぬ篤信の表れと  
 感じ入っています

「分衛所」の甲斐照光  
 家・「安下所」の安藤廣



国泰寺派管長猊下と閑栖和尚

美家・「茶礼所」の小野  
 道夫家のご家族のみなさ  
 まには、景観の整備から  
 仏間の支度・障子・襖や  
 畳替えにいたるまで細や  
 かにご配慮を頂き感謝の  
 念に堪えません。

各地の和尚さま方から  
 「すばらしい檀家さんた  
 ちですね」と言われるた  
 びに誇らしく、これほど  
 住職冥利に思うことは在  
 りませんでした。

みなさまから「ご先祖  
 の歴史と誇りを尊ぶ心

根」を十分に賜り、正定  
 寺の品格を示す事ができ  
 ました。

大勢のみなさまの温か  
 いお言葉やお姿は今後、  
 新命和尚も忘れること無  
 く法灯護持に精進するも  
 のと思います。

これからも、檀信徒の  
 みなさまには私以上に新  
 命和尚を支えて頂きます  
 よう切にお願い申し上げ  
 ます。

正定寺閑栖 壽山 拜



古くから伝わる  
 九條伝法衣での法要

回って下さった御檀家さ  
 ん。当日間違えないよう  
 にと何度も何度も役の練  
 習に専念して下さった御  
 檀家さん。他多くの御檀  
 家さんが不平一つ言わず  
 正定寺の為に一つにな  
 って式を挙げて下さいま  
 した。

本日に感謝の念が堪え  
 ません。

これからは正定寺二十  
 四世住職として一層の精  
 進に務めます。

まだまだ未熟者の住職  
 ですが、変わらぬお力添  
 えを何卒宜しくお願い申  
 上げます。

南陽 合掌